

2023年9月10日
宮崎中部教会主日礼拝
牧師 乾元美

詩編 50 : 14~15

フィリピの信徒への手紙 2 : 6~11

「神の名」(第三戒①)

(ハイデルベルク信仰問答 十戒について 問 99~100)

※問答は「日々の祈り」をご覧ください。

【招詞】詩編 33 : 1~5

【讚美歌】27「父、子、聖霊の」

【詩編交読】詩編 38 編

【赦しの宣言】イザヤ書 55 : 7「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。

わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」

【讚美歌】202「よろこびとさかえに満つ」

【祈祷】

【聖書】詩編 50 : 14~15

フィリピの信徒への手紙 2 : 6~11

【説教】「神の名」

<神の名>

毎週、ハイデルベルク信仰問答から、十戒について、一つ一つ御言葉に聞いています。

今回は、「第三戒 あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない」という戒めです。

主の名。神の名。名前というのは、その人の存在そのものを指し示します。ですから、主の名、神の名、とは、生きておられる神さまご自身、神さまの本質を表すものです。

神さまの名前は、単なる記号ではありません。神さまのお名前を呼ぶときには、天におられる全能の神、その方ご自身を、その存在を、呼んでいるということになります。

神さまは、わたしたちに人間に、ご自身の名前を示されました。それは、わたしたちにご自分の存在を教え、ご自分がどういうお方であるかを明らかにして下さった、ということです。

旧約聖書の出エジプト記 3 章には、神さまがエジプトからイスラエルの民を導くために、モーセを召し出される場面があります。そこでモーセが、民にあなたの名前を問われたら、何と答えるべきでしょうか、と神さまに尋ねます。すると神さまは、「わたしはある。わたしはあるという者だ」と、ご自分の名を教えられました(出エ 3 : 14)。

「わたしはある」。それは、まさにすべての存在の根源であり、すべてをあらゆるお方、生きておられる方である、ということです。

このようにして、イスラエルの民は、神さまの名を知らされました。

しかし、この後に「十戒」で、「あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない」との戒めを与えられた民は、その神の名を口にしてしまうことを非常に恐れるようになりました。

それで民は、その神の名を表す単語を、一切発音しないことにしたのです。それから神の名は、すべて「主（アドナイ）」という言葉に言い換えられました。

すると、そのことを徹底しているうちに、誰も、本来の神の名の本当の発音が分からなくなってしまったのです。今では、それが「ヤハウエ」と発音するのではないか、と言われていすけれども、イスラエルの民はそのような仕方、第三戒を守ろうとしたのです。

しかし、神さまが「あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない」と言われたのは、一切その神の名を発音してはいけない、という意味ではなかったはず。なぜなら、それだったら、神さまは御自分の名を教えてください、という必要はないから。

神さまがご自分の名を知らせてくださったのは、わたしたちが神の名を呼ぶことをゆるしてくださっているから。求めてくださっているから。

神さまは、お造りになったわたしたち一人一人の名をご存知です。そして、いつもわたしたちの名を呼んでくださっています。そのことに、わたしたちもまたお応えして、神さまの名を呼ぶように。呼びかけに応えられるように。互いに見つめ合い、語りあり、親しい交わりを築くようにと、神さまは、わたしたちにその名を教えてください、と。

<みだりに>

そうであるなら、この第三戒は、何を禁じているのでしょうか。それは、「あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない」とあるように、主の名を「みだりに」唱えることを禁じているのです。

「みだりに」というのは、ヘブライ語では、「偽って」とか、「虚しいもののために」という意味があります。日本語でも「みだりに」とは、「筋道の立たないこと、分を超えること、むやみ、でたらめ」という意味です。

つまり、「主の名をみだりに唱える」とは、「神さまの名を、わたしたち人間が、分を弁えないで、でたらめに、虚しく唱えること」と言ってもよいでしょう。

『ハイデルベルク信仰問答』の間 99 には、このようにありました。

「問 99 第三戒は何を求めていますか。」

「答 わたしたちが、呪いや偽りの誓いによってのみならず、不必要な誓約によっても、神の御名を冒瀆または乱用することなく、黙認や傍観によってもそのような恐るべき罪に關与しない、ということ。」

主の名をみだりに唱えることは、主の名を、わたしたちが呪いや、偽りの誓い、不必要な誓約に用いること。この問答の言葉で言えば、「乱用する」ということなのです。

時々、何か約束ごとをする時に、「神にかけて誓う」という人がいます。神にかけて誓う。それは、誓うにあたって、自分には信頼がないので、神さまの権威を借りてくること。自分の誓いに、神さまの名を持ち出すことで権威付けをする、ということです。

神の名で呪う、ということも同じです。これも、自分には相手を十分に呪う力がないので、神さまの力を借りて、相手を脅し、呪うのです。

つまり、こういうところで持ち出される「神の名」は、自分の弱さを補うためや、自分の言葉に説得力を持たせるため、自分の利益のために、引っ張り出してきたものです。

しかし軽はずみに口にしたりしても、「神の名」を利用することは、あの天地の造り主である神さまご自身を利用していることになります。生きておられる神さまを、自分のために、自分の都合で、仕えさせようとしていることになるのです。

これが、神の名をみだりに唱えることの罪です。そして、これは同時に、第一戒で求められていた、まことの神のみをまことの神とするということを破り、自分を神としていることに他なりません。また、第二戒で禁じられていた、まことの神の像を造ること、つまり神さまを、自分の理想の神さまに仕立てて、自分にとって都合のよい神さまに貶めてしまっていることと、同じです。

これは、神さまに対する激しい冒瀆であり、神さまの怒りを招くことなのです。

また西洋の社会では、もっとキリスト教が生活に浸透していて、神の名を日常的な言葉の中で使うことがあります。Oh my God! とか、Jesus! とか。これは、「なんてことだ!」「嘘だ!」「そんなバカな!」というような意味で使われます。

しかし、本当にそのようなつまらない意味で、わたしたちを生かして下さっている、まことの生ける神さまのお名前を、口にしているのでしょうか?

このようにして「神の名」をみだりに唱えること、乱用すること、自分のために用いることを、この第三戒は固く禁じているのです。そして、このような冒瀆や乱用を「黙認したり、傍観していること」も、この罪に関与することだ、と信仰問答は教えています（問 100）。

<正しい呼び方>

でも、最初に申し上げたように、だからといって、この第三戒は、神の名を口にすると教えているわけではありません。

わたしたちは自分を振り返ったとき、もしかすると自分は、神さまのお名前をみだりに唱えてしまっているのではないか。その御名を乱用し、自分の都合や、願いやばかりを告げているのではないか。祈りにおいても、神さまの名を誤って呼んで、罪を犯してしまっているのではないか。そんな風に、不安に思ってしまうかも知れません。

でもこの第三戒が求めていることは、神の名を呼ばないこと、呼ぶことをためらうことではなくて、「神の名を正しく呼ぶこと」を求めているのです。

問 99 の答えの後半部分には、こう書かれています。

「要するに、わたしたちが畏れと敬虔によらないでは神の聖なる御名を用いない、ということ。それは、この方がわたしたちによって正しく告白され、呼びかけられ、わたしたちのすべての言葉と行いとによって讃えられるためです。」

わたしたちは、この世をお造りになり、わたしたちの命を創造し、愛して下さり、イエスさまを遣わし、罪を赦し、救って下さった神さまを、畏れと敬虔をもって、心から呼び求めるべきなのです。

わたしたちは、神さまの名を呼んでよいのです。むしろ、どのような時にも、神さまの名前をこそ、呼び求めるべきです。呼ぶしかありません。そのために、神さまはわたしたちにその名を教え、ご自身を現わして下さったのですし、わたしたちの拠り所は、わたしたちの救いは、この方にしかないのですから。

宗教改革者のルターも、このように語っています。「むしろ、困った時にはいつでも、神を呼び求め、神に祈り、神をほめたたえ、感謝するのです。」

そして、そのように神さまを呼び求め、祈る時。わたしたちは、心からの信頼をもって、神さまを呼ぶ。苦しみも、悲しみも、不安も、恐れも、全部この方にお委ねし、この方の御手からすべてのよいものを受け取ることが出来ることを信じて、神さまの名を呼ぶのです。

わたしの目の前の苦しみがわたしを覆い尽くしているのではなく、それを更に超えている、神さまの遥かに大きな恵みの御手が、わたしを包んでいることを信じて、神さまの名を呼ぶのです。

わたしの小さな、自己中心的な願いが実現することではなく、こんなに罪深いわたしを愛し抜き、救い出し、生かして下さる、神さまの恵み深い御心こそが、わたしの身に実現することを求めて、神さまの名を呼ぶのです。

「わたしはある」というお方。「わたしは主、あなたの神」と言って下さるお方が、わたしたちがその名を呼ぶ時、あるいは、呼ぶことができない時であっても、いつもわたしたちと共にあってくださるからです。共にいてくださるからです。

<イエスさまの名>

「わたしはある」。この名を持たれる神さまが、ご自分のことをさらにはっきりとお示し下さったのが、この世に遣わされた神の御子イエスさまです。

イエスさまは、ヘブライ語では「ヨシュア」、「神は救い」という名のお方です。まさに名の通り、ご自身が、神の救いそのものとして来られた方です。

そしてイエスさまは、「インマヌエル」と呼ばれるお方です。「インマヌエル」は、「神は我々と共におられる」という意味です。

「わたしはある」、このすべての存在の根源であり、わたしたちをあらしめて下さるお方が、まさに「インマヌエル」と呼ばれるお方であって、イエスさまにあって、わたしたちを救い、わたしたちのすぐ近くに、いつも共にいて下さるのです。

今日読まれたフィリピの信徒への手紙 2：6～11 にはこうありました。

「キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が、『イエス・キリストは主である』と公に宣べて、父である神をたたえるのです。」

わたしたちと共にあるために。「インマヌエル」と呼ばれる方であるゆえに。神の御子イエスさまは、ご自分を無にして、僕の身分になり、わたしたち人間と同じになりました。

そして、わたしたち罪人を救うために、さらにわたしたちよりも低くへりくだり、わたしたちのためにご自分の命を与えて、十字架の死に至られた。

それは、どんなに悲惨な罪人とも、共にいて下さるため。どんなに神さまから遠く離れてしまった者がいても、イエスさまがその者とも共にいてくださって、救いとなって下さるためです。

そして、わたしたちの罪の贖いを成し遂げられたイエスさまを、父なる神さまは復活させ、高く上げ、「あらゆる名にまさる名」をお与えになりました。

それは、10 節に「天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が、『イエス・キリストは主である』と公に宣べ」る、とあるように。「イエス・キリストは主である」。まさに、この「主」こそが、あらゆる名にまさる名です。そしてこれは、まさに「神」という言葉に置き換えられた、「神」を意味する言葉なのでした。

イエスさまは、主である。まことの神である。すべての支配者である。救い主である。この主なるお方が、わたしたちと共におられるのです。

そして、わたしたちは、この主なるイエスさまの名によって、神さまに祈ることをゆるされています。名とは、その名をもつその人自身のことでした。

そうであるなら、わたしたちがイエスさまの御名によって祈るということは、祈る時、この主である、神であるイエスさまご自身が、まさにその時、その場所に、わたしと共にいてくださる、ということなのです。

この方の名を用いて、この方と共にあって、この方の祈りの中で、わたしたちは祈ることができるのです。

苦難の時に、父なる神さまの御心がなりますように、と祈られた方が、共にいて下さるからこそ。裏切る者のために、あなたの信仰がなくならないように祈った、と言って下さる方が、共にいて下さるからこそ。この方の名にあるからこそ。

わたしたちは、イエスさまと同じように、神さまを「父よ」と親しく呼んで、信頼をもって、畏れをもって、感謝をもって、祈ることができるのです。

そして、わたしたちは、この父なる神さまに、思い煩いを何でも打ち明けてよいのです。重荷をすべて委ねてよいのです。そこに、わたしたちの思いを超える、神さまの平和が、イエスさまにあって与えられていきます。

こうして、わたしたちは、共にいてくださるイエスさまにあって、正しく神の名を呼ぶ者とされていきます。わたしたちの口は、父なる神さまをほめたたえます。そして、「イエス・キリストは主である」と。この方を、「わたしの主、わたしの神よ」と。心からその名を告白する者となるのです。

【お祈り】

天の父なる神さま 御名をほめたたえます。

わたしたちに、あなたの名を示して下さい、その名を呼ぶことをゆるして下さい、感謝いたします。また、イエスさまが、インマヌエルと呼ばれる方であり、あらゆる名にまさる名、「主」と呼ばれる方であること、わたしたちの主であられることを、感謝いたします。

わたしたちが、あなたのお名前を自分勝手な思いで呼ぶのではなく、聖霊の導きにあつて、主なるイエスさまの名のもとで、あなたの救いの恵みに深く心を留めつつ、心からの畏れをもって、心からの愛と感謝を持って、呼ぶことができますように。

一人でも多くの者が、イエスさまを主と告白し、あなたの名を呼ぶ幸い、イエスさまの名によって祈ることの幸いに、与ることが出来ますように。

このお祈りを主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

【讚美歌】 7 「ほめたたえよ、力強き主を」

【信仰告白】 ニカイア信条

【十戒】

【献金】 65-1 「今そなえる」

【主の祈り】

【祈祷】

【讚美歌】 28 「み栄あれや」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。アーメン